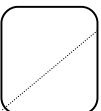


ごんぎつね①

名前



「ごんぎつね」を読みながら、問題に答えましょう。

その中山から、少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」という狐がいました。ごんは、一人ぼっちの小狐で、しだのいっぱいしげった森の中に穴をほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。はたけへ入って芋をほりちらしたり、菜種がらの、ほしてあるのへ火をつけたり、百姓家の裏手につるしてあるとんがらしをむしりにとって、いったり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふりつづいたその間、ごんは、外へも出られなくて穴の中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほっとして穴からはい出ました。空はからっと晴れていて、百舌鳥の声がきんきん、ひびいていました。

ごんは、村の小川の堤まで出て来ました。あたりの、すすきの穂には、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水が、どっとまっていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきや、萩の株が、黄いろくにこった水に横だおしになって、もまれていきます。ごんは川下の方へと、ぬかるみみちを歩いていきました。

ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。ごんは、見つからないように、そうつと草の深いところへ歩きよって、そこからじっとのぞいてみました。

「兵十だ」と、ごんは思いました。兵十はぼろぼろの黒いきものをまくし上げて、腰のところまで水にひたりながら、魚をとる、はりきりという、綱をゆすぶっていました。はちまきをした顔の横っちょように、まるい萩の葉が一まい、大きな黒子みたいへばりついていました。

しばらくすると、**兵十**は、はりきり網の一ばんうしろの、袋のようになったところを、水の中からもちあげました。その中には、芝の根や、草の葉や、くさった木ぎれなどが、ごちゃごちゃはいつていましたが、でもところどころ、白いものがきらきら光っています。それは、ふというなぎの腹や、大きなきすの腹でした。**兵十**は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、ごみと一しよにぶちごみました。そして、また、袋の口をしぼって、水の中へ入れました。

兵十はそれから、びくをもって川から上りびくを土手において、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。

兵十がいなくなると、**ごん**は、ぴよいと草の中からとび出して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなったのです。**ごん**はびくの中の魚をつかみ出では、はりきり網のかかっているところより下手の川の中を目がけて、ぼんぼんなげごみました。どの魚も、「とぼん」と音を立てながら、にこった水の中へもぐりごみました。

一ばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、何しろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。**ごん**はじれなくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、キュツと言って**ごん**の首へまきつきました。そのとたんに**兵十**が、向うから、

「うわあぬすと狐め」と、どなりたてました。**ごん**は、びっくりしてとびあがりました。うなぎをふりすててにげようとしたが、うなぎは、**ごん**の首にまきついたままはなれません。**ごん**はそのまま横つとびにとび出して一しようけんめいに、にげていきました。

ほら穴の近くの、はんの木の下でふりかえって見ましたが、**兵十**は追っかけては来ませんでした。

ごんは、ほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっとはずして穴のそとの、草の葉の上のせておきました。

問題

「こんはどのようないたずらをしましたか。文章から三つのいたずらをさがし、「こ」と「に」をつづくおもしろい書き方をしなさい。」

①

いじり。

②

いじり。

③

いじり。